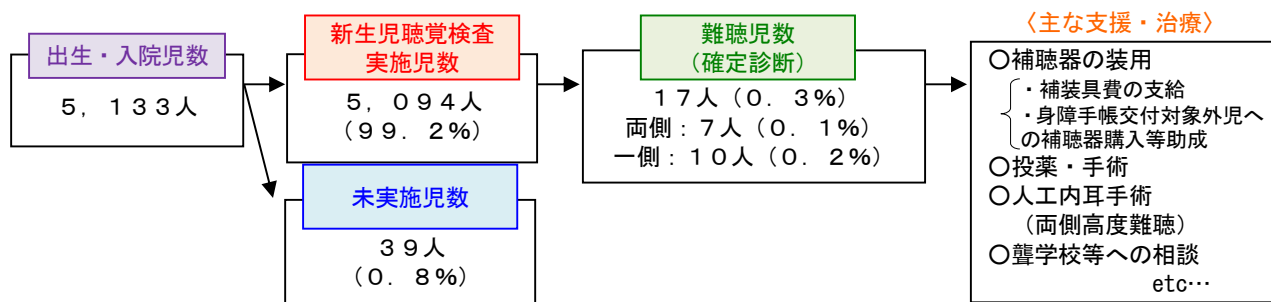


平成29年度新生児聴覚検査実施状況のまとめ

平成30年11月
鳥取県福祉保健部子育て王国推進局
子ども発達支援課

- ・新生児聴覚検査は、聴覚障がいを早期発見し、早期に児及び保護者に支援を行うことを目的としている。
- ・平成29年度は、県内の分娩取扱産科施設16か所について、新生児聴覚検査実施状況の調査を行った。（全分娩取扱施設で実施。）
- ・平成29年度の県全体の新生児聴覚検査実施率は99.2%（前年度99.2%）で高い実施率を保持している。
- ・このことは、医療機関等のご理解とご協力により、保護者の理解が進んだことによると考えられ、新生児聴覚検査の早期発見及び早期支援体制の構築に繋がっている。
- ・県全体で難聴の確定診断を受けたのは17人（両側難聴7人／一側難聴10人）で、新生児聴覚検査実施児数（5,094人）の0.3%であった。

【聴覚障がい児発見と支援・治療の全体像】



〈参考〉

H29年県出生数…4,310人

1 新生児聴覚検査実施状況について

- ・NICU入院児の検査実施率は100%で、前年度と比べ0.4%増加した。
- ・NICU入院児を除いた検査実施率は99.2%で、前年度と比べ0.1%増加した。
- ・未実施の理由は、「保護者が希望しない」などであった。

2 精密検査実施状況について

- ・NICU入院児の難聴児数は、両側難聴が2人（高度）、一側難聴が2人（軽度：1人、高度：1人）であった。
- ・NICU入院児を除いた難聴児数は、両側難聴が5人（軽度：1人、中等度：2人、高度：2人）、一側難聴が8人（軽度：3人、中等度：1人、高度：4人）であった。

3 市町村及び保健所訪問指導等実施状況について

- ・相談件数は9件（新生児訪問での相談：6件、検診・予防接種等での相談：1件、電話相談：2件）で、保健師による支援が実施された。

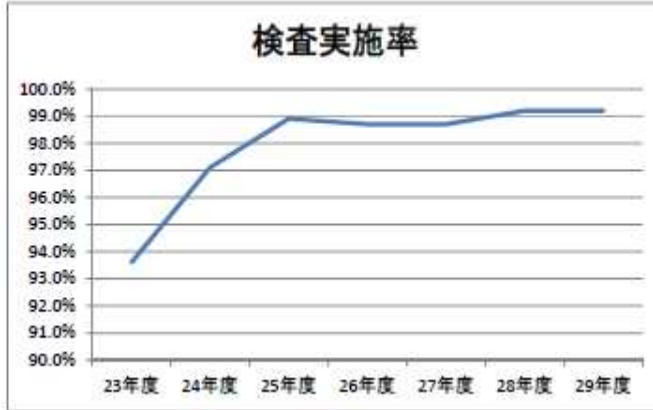
4 療育・教育指導実施状況

- ・新生児聴覚検査を受けてリファーとなり、療育・教育を開始したのは11人で、うち6人は県内精密検査実施機関から、うち1人は県内療育機関から、うち1人は保健師からの紹介によるものであった。

資料

1 新生児聴覚検査実施状況

・県全体の検査実施率は、99.2%(前年度99.2%)となった。



年度	検査実施状況		
	出生・入院児数 (A)	検査実施児数 (B)	実施率 (B/A×100)
29年度	5,133	5,094	99.2%
28年度	5,343	5,299	99.2%
27年度	5,916	5,841	98.7%
26年度	5,587	5,515	98.7%
25年度	5,710	5,648	98.9%
24年度	5,672	5,506	97.1%
23年度	6,073	5,682	93.6%

(1) NICU 入院児の状況

①実施状況

- ・全体の検査実施率は、100%であり、昨年度と比べ0.4%増加した。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部が100%(前年度1.3%増)、中部も100%(前年度同比)、西部も100%(前年度同比)となっている。

圏域	検査実施状況			検査結果			精密検査紹介数		
	医療機関入院児数	検査実施児数	実施率	パス	リファー	リファー率	県内耳鼻科	県外耳鼻科	その他
東部	148	148	100.0%	146	2	1.35%	2	0	0
中部	70	70	100.0%	70	0	0.00%	0	0	0
西部	136	136	100.0%	129	7	5.15%	7	0	0
合計	354	354	100.0%	345	9	2.54%	9	0	0

②検査機器別実施状況

すべてのNICU医療機関で、検査機器はAABRを使用。

(2) NICU 入院児を除いた状況

①実施状況

- ・検査実施率は99.2%であり、前年度と比べ0.1%増加した。
(H26年度:98.6%、H27年度:98.7%、H28年度:99.1%)
- ・未実施の理由は「保護者が希望しない」などであった。
- ・実施率を圏域別で見ると、東部が100%(前年度同比)、中部は97.6%(前年度比1.6%増)西部は99.1%(前年度比0.5%減)となっている。

圏域	検査実施状況			入院中検査			確認検査(1ヶ月健診時)		精密検査紹介数		
	医療機関 出生児数	検査実施 児数	実施率	パス	リファー	リファー 率	パス	リファー	県内 耳鼻科	県外 耳鼻科	その他
東部	1,915	1,915	100.0%	1,853	62	3.24%	39	23	23	0	0
中部	920	898	97.6%	891	7	0.78%	6	1	1	0	0
西部	1,944	1,927	99.1%	1,909	18	0.93%	9	8	9	0	0
合計	4,779	4,740	99.2%	4,653	87	1.84%	54	32	33	0	0

※検査結果：パス→正常、リファー→要再検査

注1：西部圏域の入院中検査でリファーとなった18例のうち1例は確認検査前に精密検査機関を紹介。

②検査機器別実施状況

県全体としての検査機器ごとのリファー率は下表のとおりである。

検査実施16施設のうち、AABR使用は10施設（62.5%）、OAE使用は5施設（31.2%）、併用1施設（6.3%）である。

検査機器	検査件数 (B)	リファー (C)	リファー 率 (C/B)
AABR	2,938	19	0.65%
OAE	1,802	68	3.77%
29年度合計	4,740	87	1.84%
(参考) 28年度合計	4,829	66	1.37%

※併用はAABRに計上

2 精密検査実施状況

・県全体で難聴の確定診断を受けたのは17人で、新生児聴覚検査実施児数（5,094人）の0.3%であった。

(1) NICU入院児の状況

①精密検査の受診状況

新生児聴覚検査の結果、県内NICUから県内精密検査機関（※）への紹介は9人であり、精密検査機関を受診したのは4人だった。

圏域	精密検査紹介数			受診状況 精密検査受診者数
	県内NICU からの紹介	県外医療機 関への紹介	その他	
東部	2	0	0	1
中部	0	0	0	0
西部	7	0	0	3
29年度合計	9	0	0	4

※県内精密検査機関：県立中央病院、日赤病院、県立厚生病院、鳥取大学医学部附属病院、山陰労災病院の5機関

②実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児が、精密検査で正常とされたいわゆる偽陽性は4人中0人（0%）であった。

	スクリーニング結果			精密検査結果			
	県内NICUからの紹介	県外医療機関からの紹介	検査機器	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	4	0	A A B R	2	2	0	0
合計				2	2	0	0

③難聴児の聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児の難聴児の聴力の内訳は以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は1件であった。

	程度	一側難聴	両側難聴	紹介件数	
				県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ
全県	軽度難聴	1	0	1	0
	中等度難聴	0	0		
	高度難聴	1	2		
合計		2	2	1	0

(2) NICU 入院児を除いた状況

①精密検査の受診状況

新生児聴覚検査の結果、県内の産科から県内精密検査機関への紹介は33人、県外から県内精密機関への紹介は2人であり、県内精密検査機関を受診したのは37人だった。

圏域	精密検査紹介数(1ヶ月健診)			受診状況
	県内産科からの紹介	県外医療機関からの紹介	その他	精密検査受診者数
東部	23	0	0	17
中部	1	0	0	6
西部	9	2	0	14
29年度小計	33	2	0	37

②実施状況

出産のための入院中の検査でリファーとなっていた児が、精密検査の結果、正常とされたいわゆる偽陽性は全体で37人中24人、AABRでは19人中10人(52.6%)、OAEでは、18人中14人(77.8%)であった。

	スクリーニング結果				精密検査結果			
	県内産科からの紹介	県外産科からの紹介	検査機器	人数	一側難聴	両側難聴	正常	確定診断未
全県	35	2	A A B R	19	6	3	10	0
			O A E	18	2	2	14	0
合計				37	8	5	24	0

③難聴児の聴力の内訳と紹介人数

NICU 入院児を除いた難聴児の聴力の内訳は以下のとおりである。県内の聾学校への紹介は

9人、県外の難聴児教育施設等への紹介は1人、その他は1人だった。

	程度	一側難聴	両側難聴	正常	不明	紹介件数		
						県内の聾学校へ	県外の難聴児教育施設等へ	その他
全県	軽度難聴	3	1	24	0	9	1	1
	中程度難聴	1	2					
	高度難聴	4	2					
合計		8	5	24	0	9	1	1

3 市町村及び保健所訪問指導等実施状況

市町村保健師が実施した訪問指導等の内訳は以下のとおりである。

新生児訪問の際に保護者から相談を受けた事例が6人、検診・予防接種等の場で相談を受けた事例が1人、電話で相談を受けた事例が2人であった。

区分	相談件数	関係機関からの指導依頼				新生児訪問での相談	健診・予防接種等の場	その他の経路による相談	電話相談
		新生児スクリーニング実施医療機関から	聴覚精検実施医療機関から	保健所から	その他の機関から				
東部圏城市町村・保健所	3	0	0	0	0	1	0	0	2
中部圏城市町村・保健所	3	0	0	0	0	3	0	0	0
西部圏城市町村・保健所	3	0	0	0	0	2	1	0	0
合計	9	0	0	0	0	6	1	0	2

4 療育・教育機関での指導実施状況

聾学校での療育・教育の開始人数は11人であった。

県内精密検査機関からの紹介が6人、保健師からの紹介が1人、県内療育機関からの紹介が1人、その他が3人だった。

療育・教育機関	人数	紹介者		
		耳鼻科医	保健師	その他
聾学校	11	6	1	4
その他	0	0	0	0
合計	11	6	1	4

5 参考

平成29年鳥取県出生数 4,310人